



2025年3月期第1四半期

決算説明資料

株式会社翻訳センター [証券コード：2483]

2024年9月21日

Table of Contents

- 会社概要
- 連結決算概要
- 成長戦略
- Appendix

Section 1

- 会社概要
- 連結決算概要
- 成長戦略
- Appendix

会社概要

企業理念

産業技術翻訳を通して、国内・外資企業の国際活動をサポートし、国際的な経済・文化交流に貢献する企業を目指す

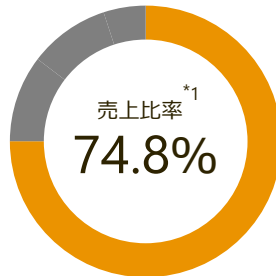
経営ビジョン

すべての企業を世界につなぐ言葉のコンシェルジュ

人と人とのコミュニケーションになくてはならないのが「言葉」です。
国や言語が違って「言葉」は世界の人々が理解し合うための重要なツールです。
翻訳センターは、「言葉」でお客様を世界につなぎます。

会社名	株式会社 翻訳センター	関係会社	株式会社アイ・エス・エス 株式会社メディア総合研究所 株式会社FIPAS 株式会社パナシア 株式会社福山産業翻訳センター HC Language Solutions, Inc. ランゲージワン株式会社（持分法適用会社）
本社所在地	大阪本社：大阪府大阪市中央区久太郎町4丁目1番3号 東京本社：東京都港区三田3丁目13番12号	事業内容	翻訳事業、通訳事業、派遣事業、 通訳者・翻訳者養成、外国特許出願支援、 メディカルライティング、多言語コール センター
代表者	二宮 俊一郎		
設立	1986年4月		
資本金	5億8,844万円（2024年3月末現在）		
従業員数	562人（2024年3月末現在）*連結		
事業所	【国内】大阪、東京、名古屋 【海外】カリフォルニア		

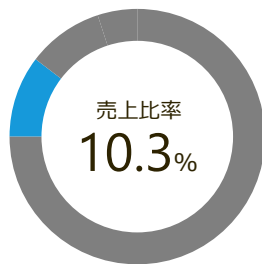
事業概要



翻訳事業

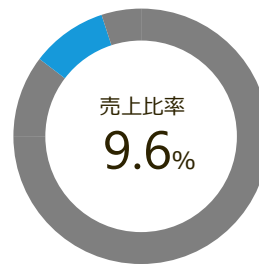
- ・ 特許、医薬、工業・ローカライゼーション、金融・法務に特化した技術・ビジネス文書の翻訳
- ・ 臨床試験関連文書の作成（メディカルライティング）
- ・ 機械翻訳「Mirai Translator[®]」、翻訳支援ツール「Phrase TMS」等、AI・ソフトウェアサービスの提供

顧客企業への
通訳者・翻訳者の派遣



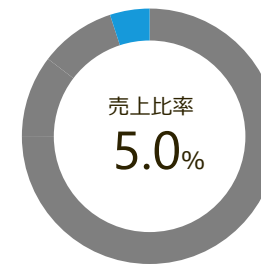
派遣事業

会議、商談、視察・査察等の
ビジネス通訳



通訳事業

外国への特許出願支援、
通訳者・翻訳者の養成、
会議・学会等の企画・運営等

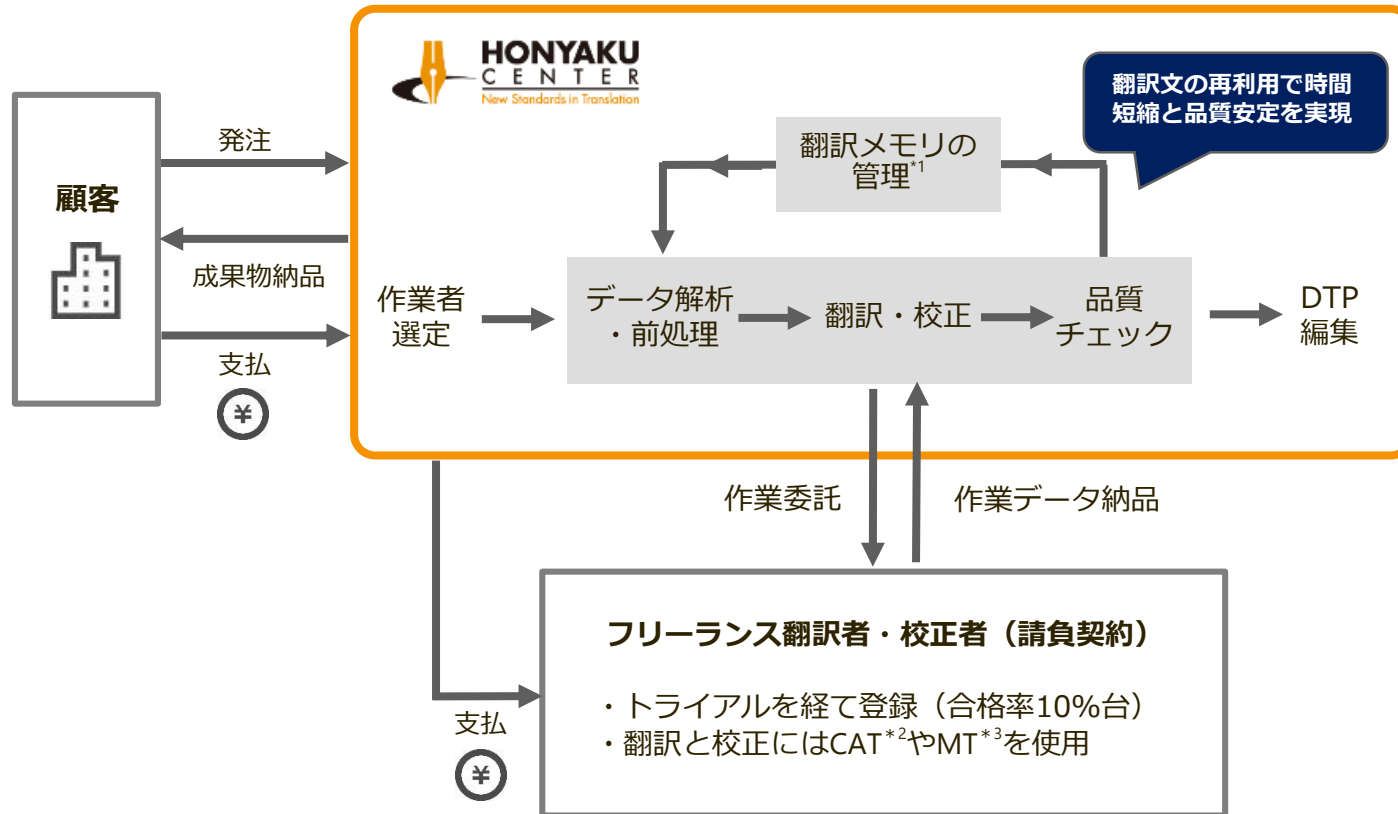


その他^{*2}

*1 2024年3月期実績（翻訳事業以外も同様）

*2 コンベンション事業は2025年3月期より「その他」の事業に含めて報告する方法に変更したため、同事業の2024年3月期実績は「その他」に含めております。

ビジネスモデル



*1 翻訳メモリ：(Translation Memory) とは過去に翻訳した文章を原文と訳文のペアでデータベース化したものであり、略して「TM」とも言う。

*2 CAT：翻訳支援ツール (Computer-Assisted Translation | 翻訳者や校正者の作業を支援し、作業効率向上に導くソフトウェア) の略語

*3 MT：機械翻訳 (machine translation | 人を介さず機械が行なう翻訳) の略語

| 当社グループの特長



顧客ポートフォリオ



テクノロジーの活用



外国語の総合サプライヤー

顧客ポートフォリオ

顧客数^{*1} 3,500社

年間受注件数^{*1} 49,000件

医薬品・医療



- ・医薬品
- ・CRO
- ・医療機器
- ・大学、病院

[取引実績]^{*2}
世界売上高
100億ドル超
26社の96%

特許



- ・特許事務所
- ・企業知財部
- ・特許調査会社

[取引実績]^{*3}
出願件数上位
100事務所の
約70%

製造業



- ・自動車
- ・機械
- ・電機、電子
- ・エネルギー

非製造業



- ・情報、通信
- ・サービス
- ・インフラ

金融・保険・法律



- ・証券、銀行
- ・損保、生保
- ・法律事務所

官公庁・公社



- ・官公庁
- ・独立行政法人
- ・公益法人

*1 2024年3月31日時点

*2 2022年12月期（一部の日本企業は2023年3月期、豪CSLは2022年6月期）の世界売上高が100億ドルを超える企業26社をランキングして算出

*3 知財ラボ「2022年特許事務所ランキング（<https://jp-ip.com/ranking-list/index/2/1>）」をもとに算出

テクノロジーの積極活用



翻訳支援ツール
[CAT]

- 翻訳メモリの生成
- 用語管理
- 人的ミスの検出



機械翻訳
[MT]

下訳の自動生成

※MTはCATに連携させて使用



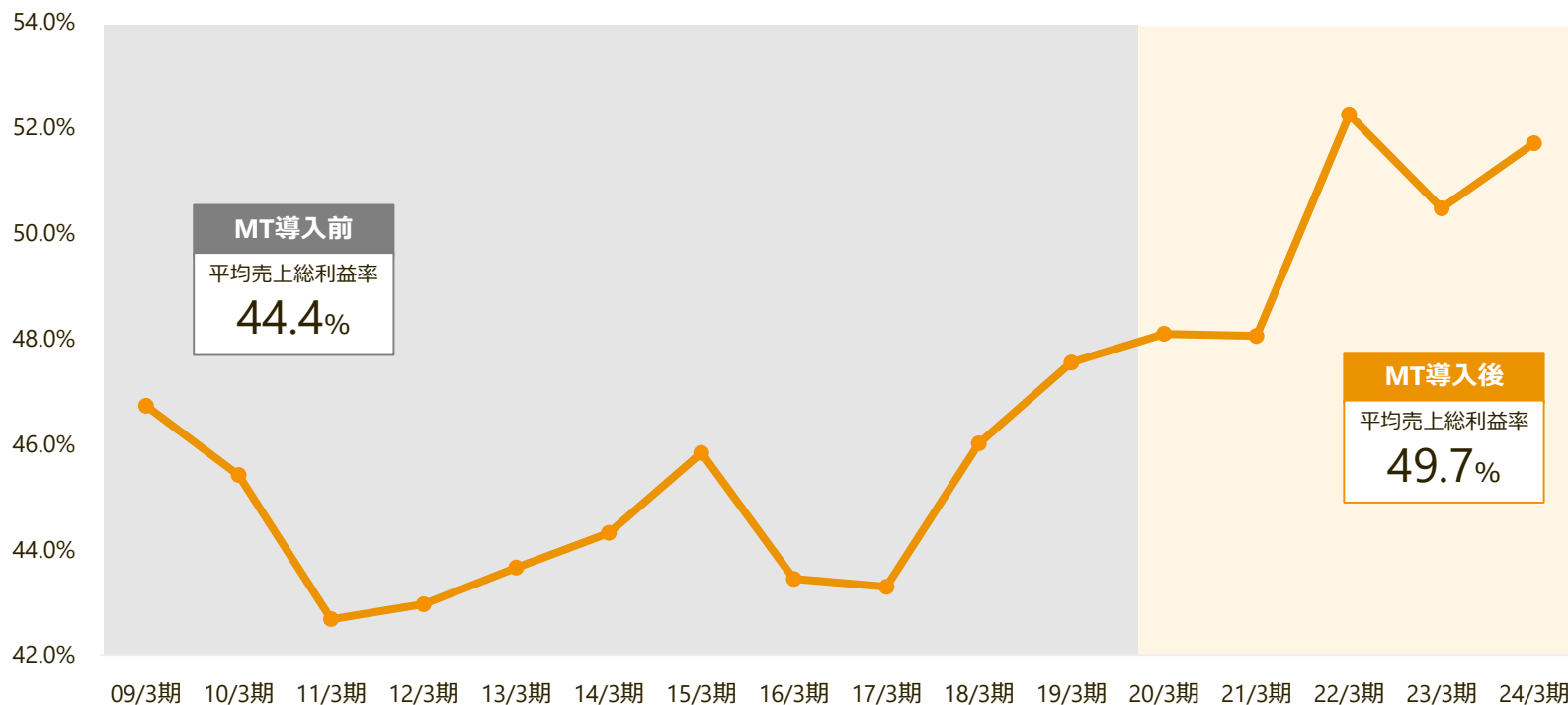
翻訳管理システム
[TMS]

- プロジェクト管理
- 言語資産の一元管理
- 外部システムとの連携

テクノロジーの積極活用

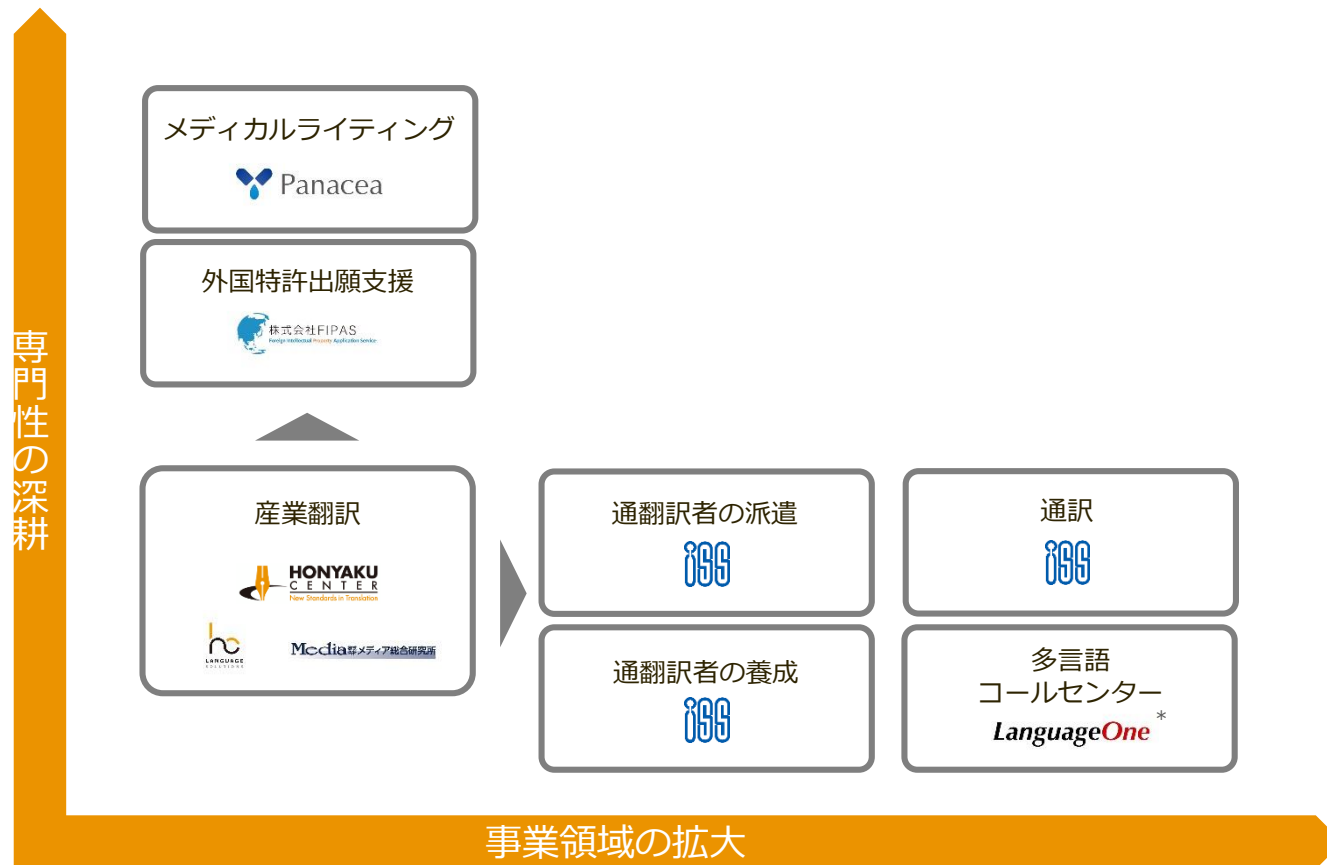
機械翻訳（MT）を下訳として活用することで、翻訳センター（単体）の売上総利益率が向上

翻訳センター（単体）の売上総利益率



| 外国語サービスの総合サプライヤー

産業翻訳を軸に成長しながら、通訳・派遣やライティング・出願支援等の周辺事業にも進出。外国語サービスの総合サプライヤーとして企業の国際活動を幅広く支援



*持分法適用会社

Section 2

- 会社概要
- 連結決算概要
- 成長戦略
- Appendix

2025年3月期1Q業績ハイライト

売上高

2,715百万円

前年同期比+5.3%

営業利益

173百万円

前年同期比+4.0%

経常利益

175百万円

前年同期比△1.8%

四半期純利益

112百万円

前年同期比△4.0%

POINT.1

派遣事業が減収となるも、堅調な翻訳事業と伸長が続いている通訳事業が連結売上高を押し上げ

POINT.2

持分法による投資利益の減少で経常利益と四半期純利益は減益

2025年3月期1Q業績

(百万円)

	2024年3月期 1Q実績	2025年3月期 1Q実績	増減	増減率
売上高	2,578	2,715	137	5.3%
翻訳事業	1,979	2,047	68	3.3%
特許	719	749	30	4.2%
医薬	618	598	△20	△3.2%
工業・ローカライゼーション	461	500	39	8.5%
金融・法務	180	197	17	9.5%
派遣事業	298	289	△9	△2.9%
通訳事業	207	284	77	37.3%
その他	92	94	2	1.3%
売上原価	1,323	1,408	85	6.4%
売上総利益	1,254	1,307	53	4.2%
売上総利益率	48.6%	48.1%	△0.5pt	—
販売管理費	1,087	1,133	46	4.2%
営業利益	167	173	6	4.0%
経常利益	178	175	△3	△1.8%
親会社株主に帰属する四半期純利益	117	112	△5	△4.0%

*コンベンション事業は2025年3月期より「その他」の事業に含めて報告する方法に変更したため、同事業の2024年3月期実績は「その他」に含めております。

2025年3月期予想

(百万円)

	2024年3月期 実績	2025年3月期 予想	増減	増減率
売上高	11,303	12,100	796	7.0%
翻訳事業	8,458	9,240	781	9.2%
特許	2,902	3,130	227	7.8%
医薬	2,605	2,960	354	13.6%
工業・ローカライゼーション	2,368	2,510	141	5.9%
金融・法務	582	640	57	9.8%
派遣事業	1,174	1,220	45	3.8%
通訳事業	1,095	1,260	164	15.0%
その他	575	380	△195	△33.9%
売上原価	5,990	6,300	309	5.1%
売上総利益	5,313	5,800	486	9.1%
売上総利益率	47.0%	47.9%	0.9pt	—
販売管理費	4,410	4,750	339	7.6%
営業利益	902	1,050	147	16.3%
経常利益	938	1,080	142	15.0%
親会社株主に帰属する当期純利益	711	720	8	1.2%

*コンベンション事業は2025年3月期より「その他」の事業に含めて報告する方法に変更したため、同事業の2024年3月期実績は「その他」に含めております。

Section 3

- 会社概要
- 連結決算概要
- **成長戦略**
- Appendix

国内翻訳・通訳の市場規模

国内の翻訳・通訳市場
(2023年度) ^{*1}

2,960億

コロナ禍前の2019年度は2,970億。2020年度には2,540億と大幅減少するも徐々に回復し、2022年度は2,930億。2023年度はコロナ禍前を上回り過去最高の水準となった

当社シェア ^{*2}

3.8%

日本には約2,000社（推定）の翻訳会社が存在すると言われていた一方、年商10億超の翻訳会社は当社を含めて9社 ^{(*)3} しかなく、小規模事業者の多い業界とされている。

*1 「語学ビジネス市場の実態と展望」（矢野経済研究所）

*2 当社2024年3月期連結売上高（113億300万）を2023年度の翻訳・通訳市場規模（2,960億）で除して算出

*3 一般社団法人日本翻訳連盟「2022年度翻訳通訳白書-第7回翻訳・通訳業界調査報告書」P7より当社にて算出

第5次中期経営計画 基本方針

ビジネス環境の変化やデジタル化の進展に対応しつつ、
 業界・ドキュメント別に最適化された言語資産の活用モデルを確立し、
 対象市場でのプレゼンスを高め、持続的な成長を実現する。

重点施策



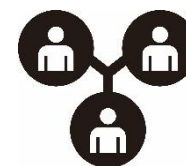
ドキュメント集約メカニズム
の構築

重点施策



ドキュメント別言語資産活用
モデルの確立

重点施策



働き方改革や事業変革を
支える経営基盤の整備

2025年3月期 数値目標	売上高	営業利益*	当期純利益*	営業利益率*	ROE
	121億円	10.5億円	7.2億円	8.6%	12.0%

*2024年5月13日に発表した2025年3月期連結業績予想に合わせて修正

ドキュメント集約メカニズムの構築

創薬・育薬プロセスで発生するドキュメントの特徴に合わせた翻訳サービスを提供。顧客を困り込み、ドキュメントが集約する仕組みを構築

ドキュメント集約メカニズムの事例（医薬分野）

創薬（研究開発、承認・審査）				育薬 （再審査・再評価）
基礎研究	▶ 非臨床試験	▶ 臨床試験	▶ 承認申請	▶ 製造、販売 市販後調査
主なドキュメント ・試験計画書 ・試験報告書 ・製造指図書 ・バリデーション資料		・治験薬概要書 ・治験実施計画書 ・治験総括報告書	CTD（コモン・テクニカル・ドキュメント）	・添付文書 ・CIOMS ・症例報告 ・PSUR
基礎研究から市販後調査まで、各ステージで発生する、あらゆるドキュメントの翻訳に対応				
ドキュメント間の相互の関連性に配慮した品質管理体制の構築				

NEXT

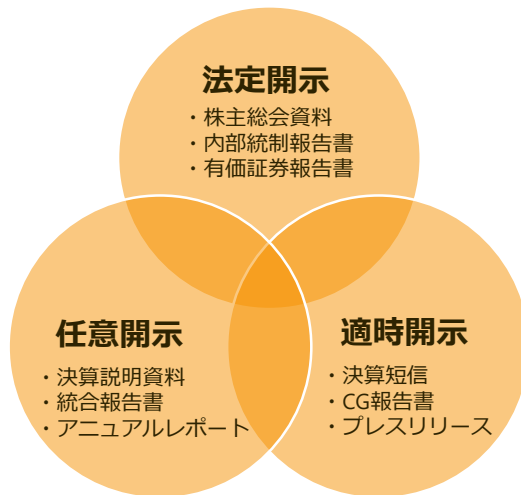
医薬品開発資料や特許明細書に続く、次の収益の柱を育成する。当社の強みが活きるターゲット市場をドキュメント単位で設定し、ドキュメント種類に合わせたサービス改善と効果的なマーケティング活動を行なっていく。

ドキュメント集約メカニズムの構築

東証の市場再編を機にIR関連ドキュメントの受注が増加。今後もプライム上場企業への英文開示義務化に伴う需要増が期待されることから、さらなる受注拡大を狙う

英文開示の高速サービスで市場のニーズに対応

(株)プロネクサスとの協業による販路拡大



開示書類に関する
知見・情報

PRONEXUS

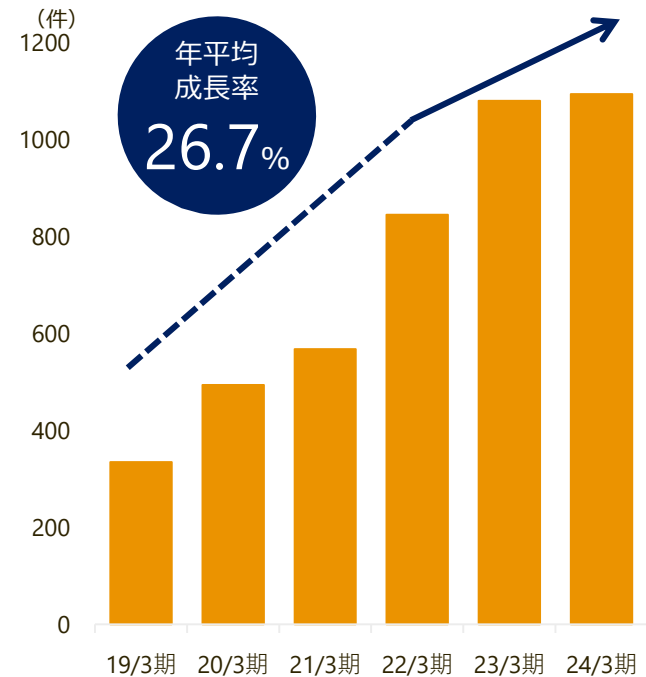


翻訳に関する
技術・実績

HONYAKU
CENTER

New Standards in Translation

IR関連ドキュメントの受注件数推移

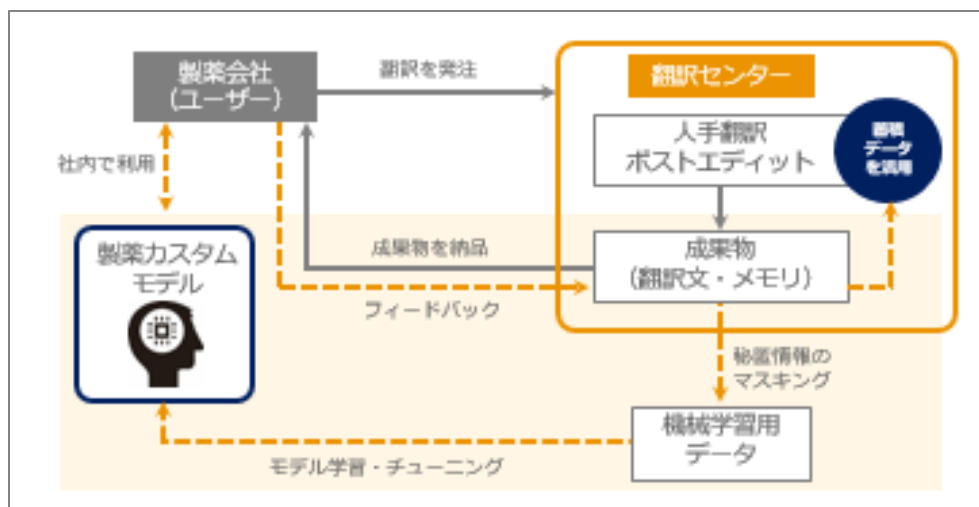


市場再編

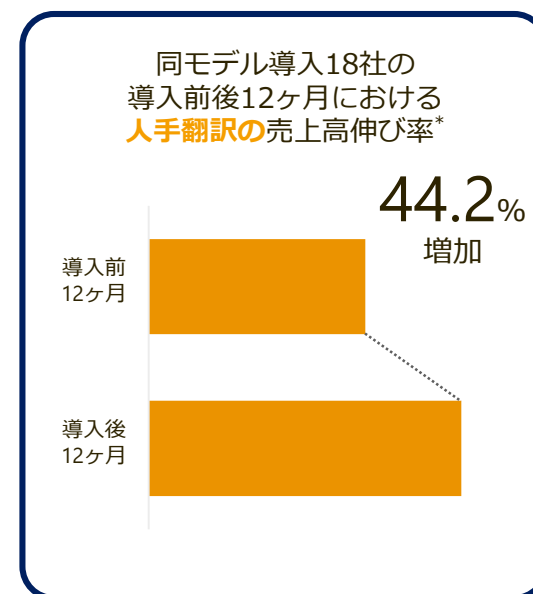
ドキュメント別言語資産活用モデルの確立

特定ドキュメントに特化した機械翻訳を開発・提供。当社に発注を集約することでモデルの継続的な精度向上に繋がる仕組みを構築し、導入企業内シェアを拡大

ドキュメント別言語資産活用モデルの事例（製薬カスタムモデル）



[製薬カスタムモデル 概念図]

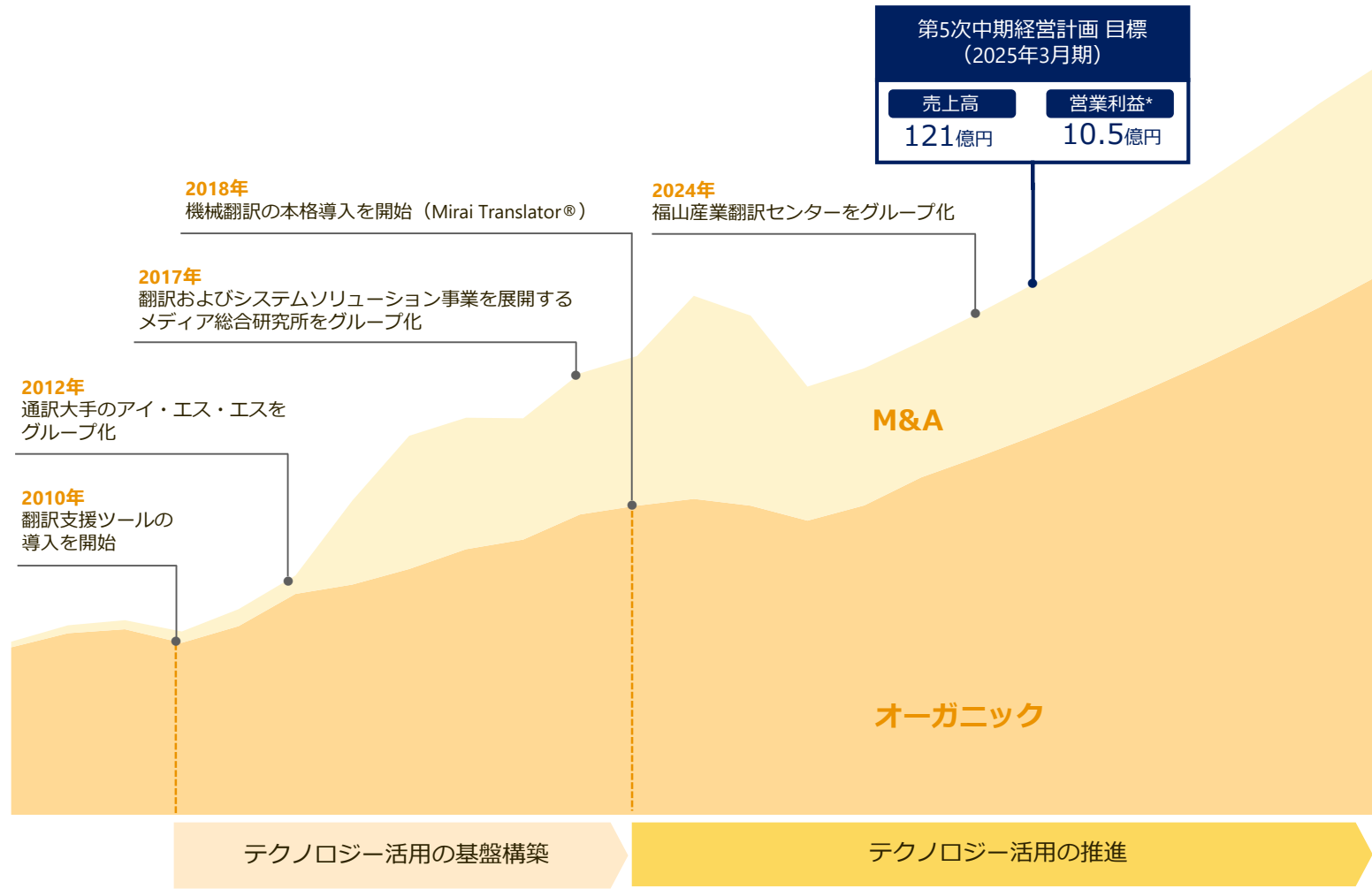


NEXT

製薬カスタムモデルのコンセプトを他分野で横展開する。

*製薬カスタムモデルへのコーパス（機械学習用データ）拠出企業は27社、うちモデル導入は19社（2024年3月末時点）

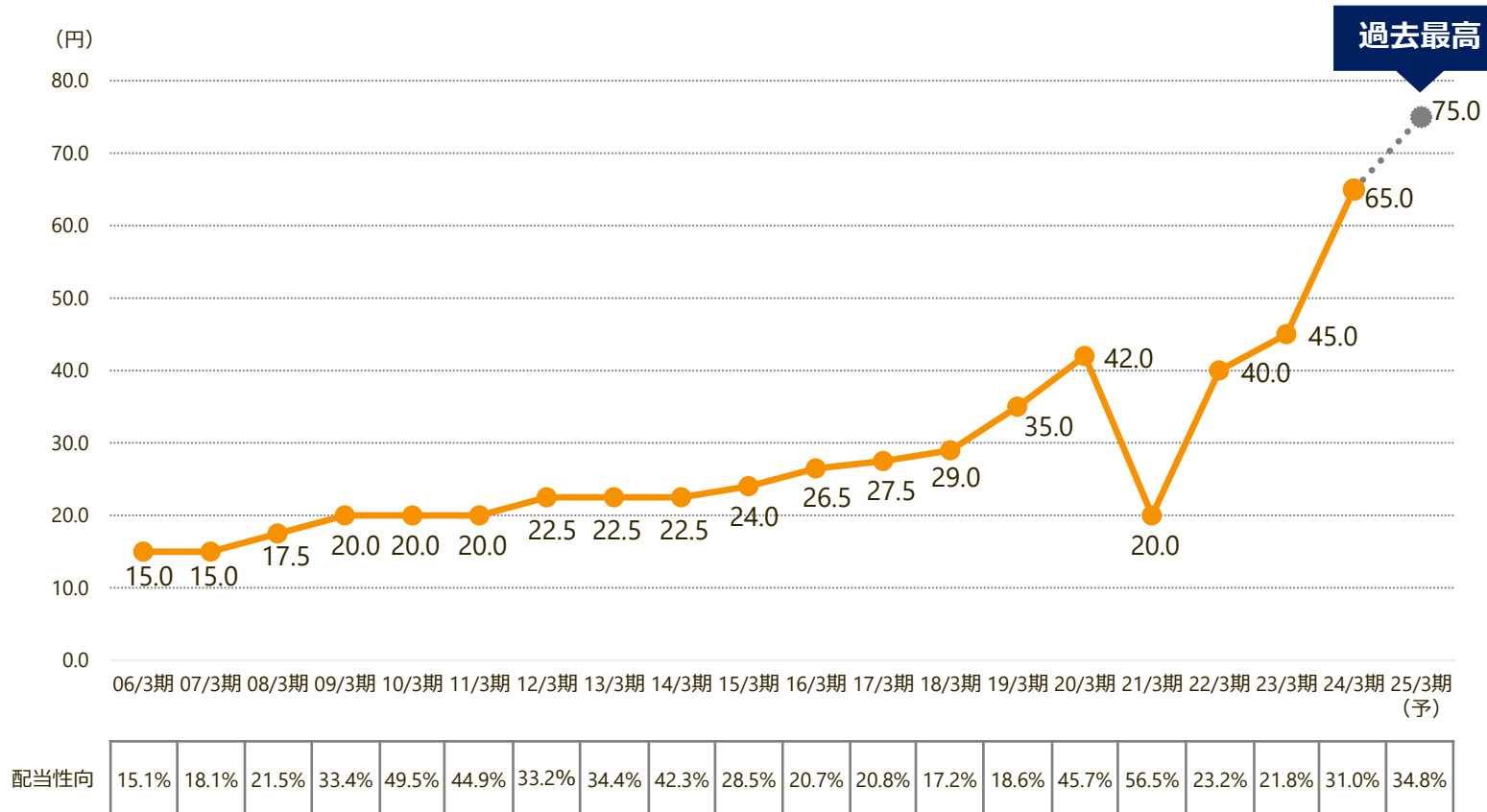
成長イメージ



*2024年5月13日に発表した2025年3月期連結業績予想に合わせて修正

株主還元

2024年3月に配当方針を変更し、配当性向の目標を35%に制定。25/3期の配当予想は前期比10円増配の75円/株（配当性向34.8%、二期連続で過去最高を予定）

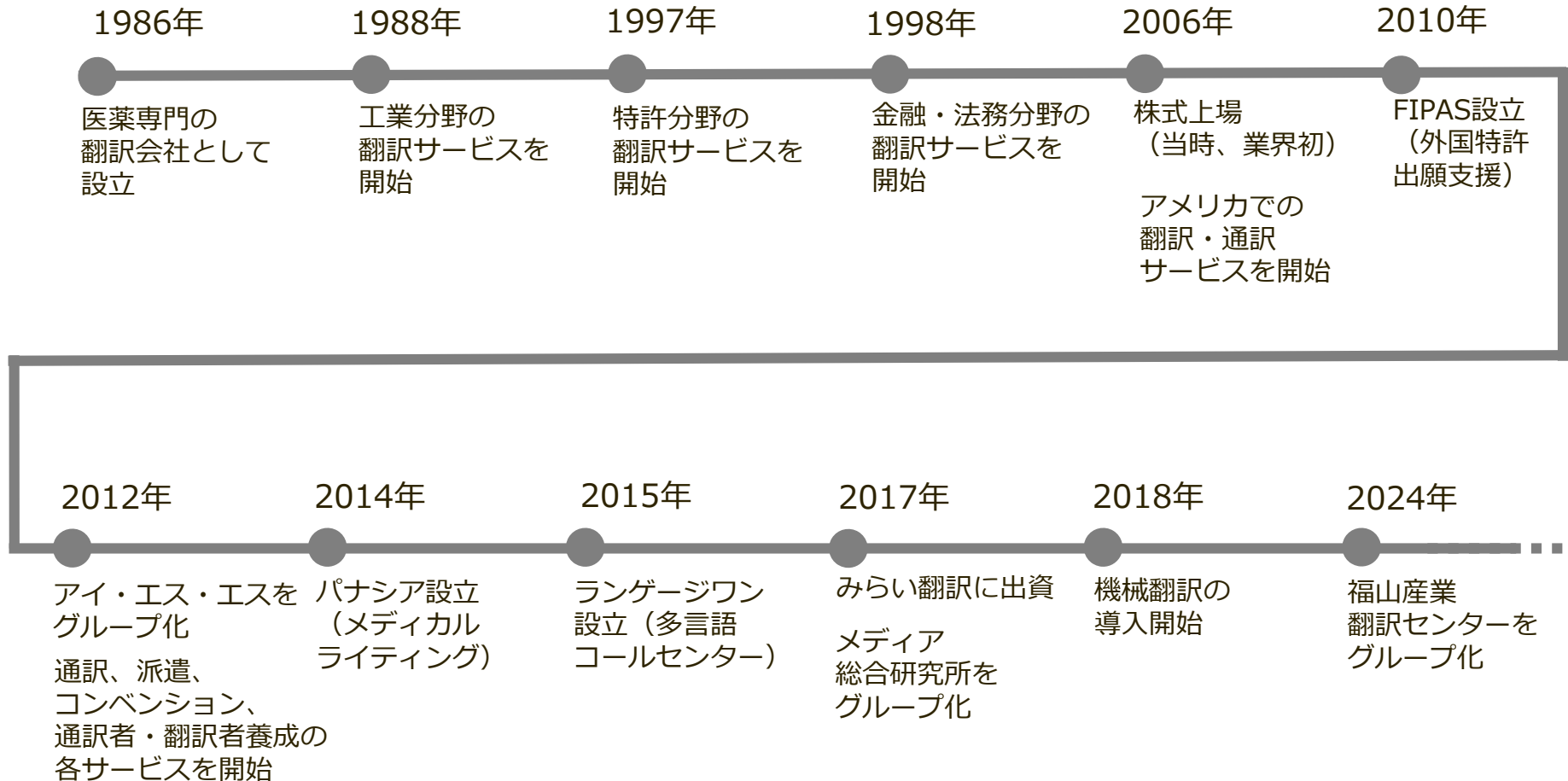


*2013年4月1日付で普通株式1株につき100株の株式分割を、また2018年4月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を実施しております。上記グラフでは当該株式分割に伴う影響を加味し、遡及修正を行った場合の1株当たりの指標の推移を記載しています。

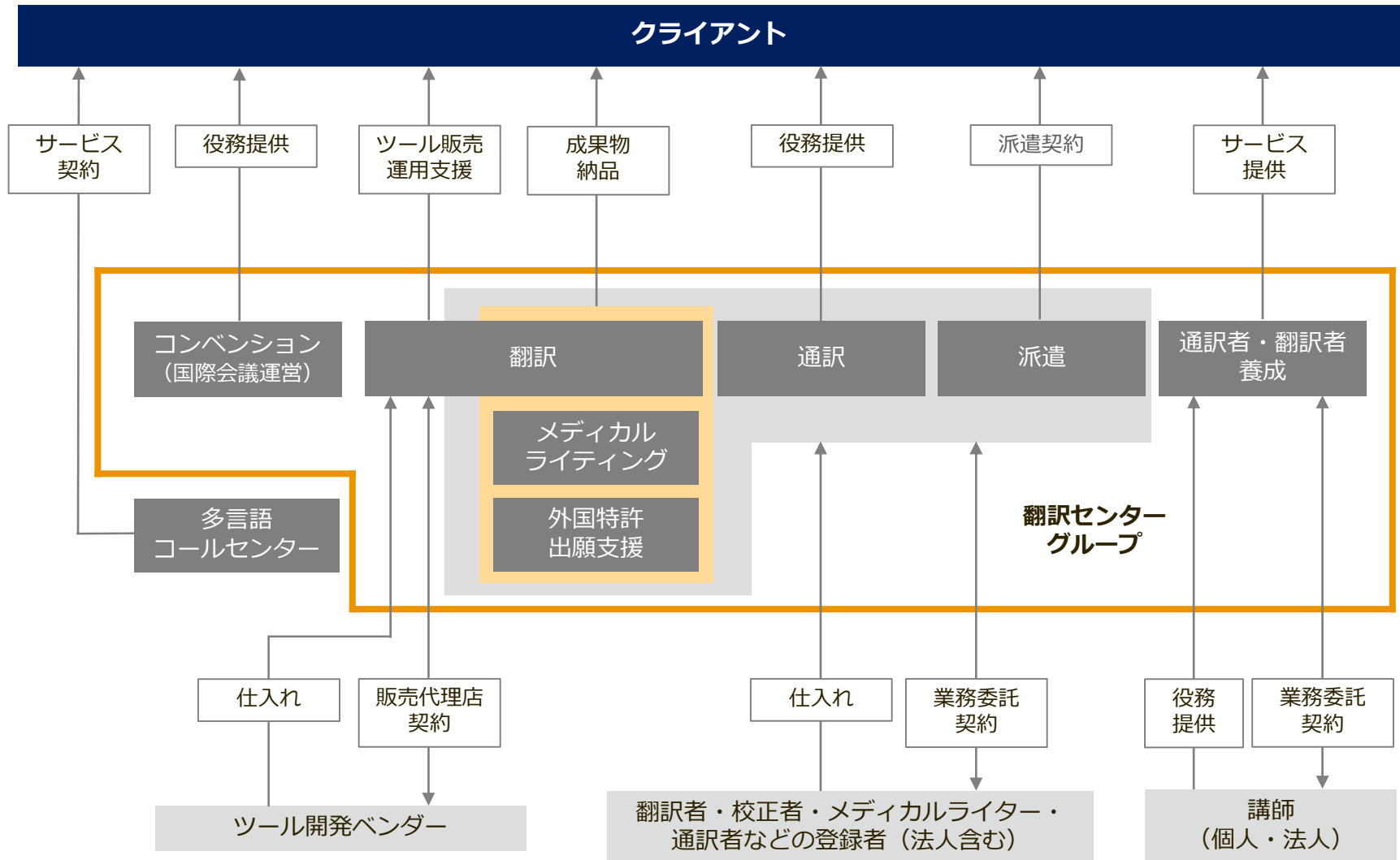
Section 4

- 会社概要
- 連結決算概要
- 成長戦略
- **Appendix**

| 沿革



事業系統図



各種指標推移

(百万円)

	2019/3期	2020/3期	2021/3期	2022/3期	2023/3期	2024/3期
売上高	12,008	11,550	9,910	10,337	10,947	11,303
経常利益	905	822	465	841	960	938
親会社株主に帰属する当期純利益	630	304	117	573	686	711
資本金	588	588	588	588	588	588
発行済株式総数 (株)	3,369,000	3,369,000	3,369,000	3,369,000	3,369,000	3,369,000
純資産額	4,350	4,545	4,524	5,090	5,672	6,250
総資産額	6,486	6,222	6,295	7,172	7,486	8,326
自己資本比率 (%)	67.0	73.0	71.8	70.9	75.7	75.0
売上高経常利益率 (%)	7.4	7.0	4.7	8.1	8.7	8.2
連結従業員数 (人)	507	522	509	520	521	562
登録者数 (人)*	2,889	3,030	3,249	2,681	2,815	2,866

*翻訳センター単体

連結財務諸表 推移

(百万円)

	2019/3期	2020/3期	2021/3期	2022/3期	2023/3期	2024/3期
売上高	12,008	11,550	9,910	10,337	10,947	11,303
翻訳事業	8,506	8,112	7,520	7,828	8,457	8,458
特許	2,139	2,258	2,100	2,316	2,708	2,902
医薬	2,897	2,749	2,875	2,904	2,796	2,605
工業・ローカライゼーション	2,725	2,472	2,038	2,028	2,376	2,368
金融・法務	744	632	505	580	575	582
派遣事業	1,192	1,200	1,228	1,212	1,119	1,174
通訳事業	1,039	1,022	477	655	854	1,095
コンベンション事業	677	782	298	220	152	233
その他	592	432	385	420	365	342
売上原価	6,999	6,625	5,536	5,429	5,860	5,990
売上総利益	5,009	4,925	4,373	4,907	5,087	5,313
売上総利益率	41.7%	42.6%	44.1%	47.4%	46.4%	47.0%
販売管理費	4,108	4,111	3,955	4,096	4,159	4,410
営業利益	900	813	418	811	928	902
経常利益	905	822	465	841	960	938
親会社株主に帰属する当期純利益	630	304	117	573	686	711

連結貸借対照表 推移

(百万円)

	2019/3期	2020/3期	2021/3期	2022/3期	2023/3期	2024/3期
資産の部						
流動資産	5,220	5,213	5,515	6,311	6,611	7,289
固定資産	1,265	1,009	780	861	875	1,036
資産合計	6,486	6,222	6,295	7,172	7,486	8,326
負債の部						
流動負債	1,974	1,503	1,595	1,891	1,618	1,853
固定負債	161	173	175	190	195	221
負債合計	2,135	1,676	1,770	2,081	1,813	2,075
純資産の部						
株主資本	4,332	4,531	4,514	5,068	5,630	6,203
その他の包括利益累計額	17	13	10	22	42	47
純資産合計	4,350	4,545	4,524	5,090	5,672	6,250
負債純資産合計	6,486	6,222	6,295	7,172	7,486	8,326

本資料には、当社に関する業績や見通し、将来に関する計画、経営目標などに関する情報が含まれています。これらは資料作成時点での想定に基づくものであり、これら情報が正確である保証はありません。また開示規則により求められる場合を除き、本資料に記載の情報は予告なしに変更されることがあります。

お問い合わせ先

株式会社翻訳センター 経営企画室

E-mail

ir@honyakuctr.co.jp

IRサイト

<https://www.honyakuctr.com/ir/>